

三原病院便り

60周年記念

こころと脳の

あいうえお

第55号

令和4年1月1日発行

特定医療法人 大慈会 三原病院
〒723-0003 三原市中之町6-31-1
電話 0848-63-8877
ホームページ www.miharahp.com
Eメール info@miharahp.com

三原病院
60周年の
ごあいさつ

病院長
小山田
孝裕



昭和36年10月に辻中チヨ氏(故人)が「三原神経科病院」として当地に三原病院を開設して今年で60年を迎えることとなりました。平成18年からは辻中志緒里氏が理事長に就任し、現在も意欲的に活動しております。病院長は今井、仲宗根、永井、梶山、押尾、清水、村岡、高橋(敬称略)に続き、私が9代目となります。平成12年4月から5年半、その後平成20年10月から当院で働いておりますので15年以上、三原病院60年の歴史の中で1/4を占めることとなり「三原病院の小山田」は近隣の医療機関や行政の方にも認知されつつあります。50周年記念誌では副院長の立場で「研修病院」「臨床研究」「電子化」「禁煙」「業務」の項目で当時の状況を述べました。60年の節目にあたりこの10年の振り返り今後の展望について書き綴りたいと思います。

この10年で最も大きな出来事は、平成25年に地域医療の基本方針となる医療計画に盛り込むべき疾病として指定してきた、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4大疾病に、精神疾患が加わり5疾病となったことでしょうか。職場のメンタルヘルスや認知症の問題などが年々深刻化することを背景に、精神医療の重要性が大きくなったことだと考えています。平成30年の第7次広島県保健医療計画では県拠点として精神科救急、地域医療拠点として統合失調症、児童思春期、認知症、災害精神医療に指定されました。当院がこの地域で果たすべき役割が明確化され一層の努力が必要だと思いました。計画の中間年度となる令和2年度には見直しが行われ、令和3年3月18日広島県医療審議会において、新たに「アルコール健康障害」の地域連携拠点にも指定されました。アルコール健康障害については、従来の入院による断酒プログラムに加え平成25年から外来で減酒プログラム(アルドック)を開始。令和3年12月からは、新たにオンラインで啓発活動(出前講座)や減酒プログラムが受けられる仕組みを開始しています。

認知症については、平成22年7月に広島県より県東部の認知症疾患医療センターに指定され、この11年間県の認知症施策に関わってきました。平成27年には三原市より認知症初期集中支援事業の委託を受けました。認知症の方が適切な時期に医療や福祉、介護等のサービスを利用できるよう、認知症初期集中支援チームを配置し活動しています。

災害医療では、平成30年7月の西日本豪雨の際には少なからず当院も被災しましたが、その中でDPAT(災害派遣精神医療チーム)として近隣の被災地へ出向いたことはまだ記憶に新しいところです。翌年の3月に大規模災害発生時における精神科医療及び精神保健活動の支援体制の充実強化を図るため、「広島DPATの派遣に関する協定」を広島県と締結しました。

国が推進する地域移行施策も当院でも進めています。従来の自立訓練施設・就労施設等の障害福祉サービス事業に加え、地域生活における支援向上のため「特定相談・一般相談支援事業所」を平成28年に開設。更に、長期入院の方の地域移行支援を促進するため、令和2年2月から令和3年1月まで地域移行機能強化病棟を算定し、令和3年2月からは総病床を405床から392床としました。

研修病院としての役割も重要だと考えています。前期研修医の研修協力病院として広島大学病院、尾道総合病院、福山医療センターと連携を深め



ています。令和3年度は11人の前期研修医が当院で研修しました。後期研修医も当院で勤務しながら精神保健指定医や日本精神神経学会専門医を取得するために頑張っています。看護部は尾道総合病院、県立広島大学、三原看護専門学校から、心理療法室では広島大学、広島国際大学や福山大学から、作業療法室では広島大学、県立広島大学や愛媛十全医療学院から、精神保健福祉室は県立広島大学や広島国際大学から学生実習を受け入れ、医療人の育成を行っています。医学教育は後進育成だけでなく当院の医療水準のアップにもつながっていると考えています。

医療拠点業務や研修業務に追われ臨床研究は多少下火になっている感じですが、新型コロナウイルス感染の影響もあり国内外の学会出張は少なくなりました。村岡満太郎先生が院長だった時から二年毎に行っていた三原病院処方調査も平成25年から医師の負担を軽減する処方中止になりましたが、県立広島大学の藤巻康一郎先生が10数年間の処方調査のデータを分析し論文として下記のジャーナルに投稿して頂きました。大変喜ばしく感謝に堪えません。

Predictors of negative symptoms in the chronic phase of schizophrenia: A cross-sectional study
Psychiatry Res. 2018 Apr; 262: 600-608.

平成16年に病院機能評価を受けて以降当院の医療水準を保つための手段として利用してきましたが、平成22年の受審を最後に断念しました。大きな理由は紙カルテの問題でした。精神医療に的確に対応しながらも価格も適正である電子カルテについて検討を重ねてまいりましたが、令和3年12月に導入となりました。平成25年に私が病院長に就任した時より、病院医療理念の遵守、業務の効率化、多職種連携の重要性を職員に説いてきましたが、電子カルテの導入によりこれらの課題の多くを達成できるものと考えています。導入後まだ一か月で職員も電子カルテの運用に慣れず、患者さんやご家族にもご迷惑をおかけしていますが、職員が一致団結し、この問題を乗り越えるつもりです。院内での多職種連携が確固たるものとなった後は地域との連携を図るつもりです。

今後新たに当院が取り組みたい医療を述べたいと思います。一つは発達障害・ギャンブル依存医療です。当院は、従来から成人期の発達障害の方の受診や入院を多く受け入れてきました。令和2年院内に多職種でのプロジェクトチームを発足し、プログラムの開発や様々な支援方法を検討しながら総合的に推進していくこととしました。また、令和3年度から新たにギャンブル依存へのニーズにも対応するため、プロジェクトチームを発足し活動を開始しています。もう一つは多言語医療です。広島空港が三原市内にあり外国籍の方のアクセスが良く、また三原市近郊でも多国籍の方の労働者も増え、所謂コロナ禍の影響もあり、多国籍の方の受診も徐々に増えてきています。この数年でも米国、英国、ベトナム、中国、フィリピン、インドなどから移住した患者さんに精神科治療を行ってきました。言語や文化の問題ばかりでなく、国によって精神医療への考え方に違いがあり現場では難問だらけですが、今後も多言語医療は避けられない問題と考えており院内での教育啓発を続けたいと思います。

少子高齢化、地域の衰退、労働人口の減少、豪雨被害などの自然災害、新型コロナウイルス問題など難題山積でなかなか楽観的にはなれません。病院長になり8年が経ちましたが、先の見えない日々が続く年齢も重ねて最近では衰えを感じます。しかし50周年誌でも述べたように三原病院開設100年を目指し、地域で信頼される精神科病院であり続けるように、患者さんやご家族に誠実に良質の医療を提供し、後進を育成し、地域の方々と連携し、教え教えられつつ、個人的には体をいたわり健康に気を付け、70周年誌にも寄稿できるように頑張っていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

沿革

1961(昭和36)年10月	<ul style="list-style-type: none">●三原神経科病院開設●今井昭正院長就任●許可病床 50 床	1995(平成 7)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●新看護3.5 : 1看護(B)10 : 1補助看
1962(昭和37)年 9 月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床105床	1995(平成 7)年12月	<ul style="list-style-type: none">●精神療養病棟(A)60床承認
1964(昭和39)年 1 月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床154床	1997(平成 9)年12月	<ul style="list-style-type: none">●重度痴呆患者デイケア(Ⅱ)開設
1964(昭和39)年 3 月	<ul style="list-style-type: none">●基準看護承認	1998(平成10)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●村岡満太郎院長就任
1966(昭和41)年10月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床179床	1999(平成11)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●精神科デイケア(小規模)開設
1966(昭和41)年11月	<ul style="list-style-type: none">●医療法人 大慈会 三原神経科病院となる	1999(平成11)年11月	<ul style="list-style-type: none">●精神科急性期治療病棟(A)50床承認●許可病床433床
1969(昭和44)年 3 月	<ul style="list-style-type: none">●辻中子ヨ理事長就任	2000(平成12)年 6 月	<ul style="list-style-type: none">●精神科デイケア(大規模)開設
1969(昭和44)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●仲宗根玄吉院長就任●許可病床253床	2001(平成13)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●医療施設近代化施設整備事業開始
1970(昭和45)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●永井太郎院長就任	2002(平成14)年 3 月	<ul style="list-style-type: none">●ヘリカルC T と分包機更新●新本館(治療棟)完成
1970(昭和45)年 5 月	<ul style="list-style-type: none">●三原病院患者家族会「のぎく会」発足	2002(平成14)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●超音波診断装置更新
1972(昭和47)年 8 月	<ul style="list-style-type: none">●職員家族寮・独身寮新設	2002(平成14)年12月	<ul style="list-style-type: none">●訪問看護室創設●病棟が7単位体制に移行完了●許可病床405床
1972(昭和47)年11月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床290床	2003(平成15)年 3 月	<ul style="list-style-type: none">●太陽熱冷暖房システム稼働●院内LANとPHSシステム新設●新医療計画工事完了
1975(昭和50)年11月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床332床	2003(平成15)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●特定医療法人に移行
1976(昭和51)年 1 月	<ul style="list-style-type: none">●医療法人 大慈会 三原病院と名称変更	2003(平成15)年10月	<ul style="list-style-type: none">●シャトルバス運行開始
1977(昭和52)年 8 月	<ul style="list-style-type: none">●栄養課棟改築移転	2003(平成15)年11月	<ul style="list-style-type: none">●辻中子ヨ理事長厚生大臣表彰受章
1978(昭和53)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床351床	2004(平成16)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●給食業務を外委託に移行
1979(昭和54)年12月	<ul style="list-style-type: none">●基準看護1類許可となる	2005(平成17)年 1 月	<ul style="list-style-type: none">●広報誌「三原病院便り」発刊
1985(昭和60)年 9 月	<ul style="list-style-type: none">●精神障害者社会復帰センター新築(あすなろ荘)	2005(平成17)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●人事考課制度の実施
1986(昭和61)年 9 月	<ul style="list-style-type: none">●基準看護特1類承認	2006(平成18)年 1 月	<ul style="list-style-type: none">●病院機能評価認定
1987(昭和62)年10月	<ul style="list-style-type: none">●第8病棟・保育所新築	2006(平成18)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●辻中志緒里理事長就任
1987(昭和62)年12月	<ul style="list-style-type: none">●作業療法室新設●許可病床395床	2006(平成18)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●居宅介護支援事業所初回の更新●三原市東部地域包括支援センター受託
1988(昭和63)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●精神科作業療法認可	2006(平成18)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●ものわずれ外来開始
1989(平成 元)年 1 月	<ul style="list-style-type: none">●梶山豊院長就任	2007(平成19)年 5 月	<ul style="list-style-type: none">●臨床研修医師を初受け入れ
1990(平成 2)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●押尾雅友院長就任	2007(平成19)年 9 月	<ul style="list-style-type: none">●就業規則の大改訂
1990(平成 2)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●喫茶室こくま営業開始(作業療法として)	2008(平成20)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●高橋輝道院長就任
1992(平成 4)年 8 月	<ul style="list-style-type: none">●服薬指導認可	2008(平成20)年11月	<ul style="list-style-type: none">●小山田孝裕副院長就任
1993(平成 5)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●検査・食堂棟新築	2009(平成21)年11月	<ul style="list-style-type: none">●のぎく会だより200号発刊
1993(平成 5)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●生活訓練施設(あいあい寮)・通所授産施設(わいわい工房)新築。精神障害者社会復帰センター(あすなろ荘)を福祉ホームとし、3施設合わせて「大慈の里」開所	2010(平成22)年 6 月	<ul style="list-style-type: none">●外来調剤を院外処方に移行
1993(平成 5)年 5 月	<ul style="list-style-type: none">●老人性痴呆疾患治療病棟(どりいむ病棟)新築●許可病床440床	2010(平成22)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●広島県東部認知症疾患医療センター指定
1993(平成 5)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●第1・2・3・7病棟改修	2011(平成23)年 1 月	<ul style="list-style-type: none">●病院機能評価再認定
1994(平成 6)年10月	<ul style="list-style-type: none">●清水賢院長就任●三原市より在宅介護支援センターを委託され開所(三原市どりいむ在宅介護支援センター)	2011(平成23)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●わいわい工房新体系移行
		2013(平成25)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●小山田孝裕院長就任
		2015(平成27)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●土岐茂副院長就任
		2016(平成28)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●相談支援事業所ヴァンペール開所
		2017(平成29)年 4 月	<ul style="list-style-type: none">●花祭り40回目を迎える
		2019(令和 元)年 7 月	<ul style="list-style-type: none">●精神科デイケア開設20周年
		2020(令和 2)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●地域移行機能強化病棟60床承認
		2021(令和 3)年 2 月	<ul style="list-style-type: none">●許可病床392床
		2021(令和 3)年10月	<ul style="list-style-type: none">●創立60周年を迎える
		2021(令和 3)年12月	<ul style="list-style-type: none">●電子カルテ導入

医療理念

科学
science

共感
sympathy

自立
independence

心の豊かさや個性が医療に求められている現代社会において、私達病院スタッフは、科学的根拠に基づいた先進の精神医療を取り入れ、大いなる慈しみの心で患者様に共感し、患者様やご家族に安心していただける信頼性の高い病院づくりを目指します。

開放的で自由な、のびのびとした環境を提供し、専門性と責任を持った態度で、患者様の自立や飛躍を支援することをスタッフの喜びといたします。

三 原病院の6ヶ条

- 1 患者様を第一とする医療を実践してまいります。
- 2 信頼と共感で結ばれた治療関係づくりに努めます。
- 3 診断や治療について先進の精神医療を提供いたします。
- 4 親しみやすく地域に開かれた病院を目指します。
- 5 社会復帰の促進に力を注ぎ、患者様の自立を支援いたします。
- 6 特色のある専門的なチーム医療を提供いたします。

権 利 宣 言

- 患者様は、一人の人間として、その人格、価値観などを尊重される権利があります。
(個人の尊厳)
- 患者様は、性別・年齢・疾病の種類などにかかわらず、平等な医療を受ける権利があります。
(平等な医療を受ける権利)
- 患者様は、医師および医療機関を選択する権利があります。
(医療の選択をする権利)
- 患者様は、自らの状況を理解するために必要な情報を知る権利があります。
(情報を知る権利)
- 患者様は、自己の自由な意思に基づいて、治療その他の医療行為を受け、あるいは拒否する権利があります。
(自己決定権)
- 患者様は、自己のプライバシーを守られる権利があります。
(秘密保持の権利)



2018年4月に広島県が策定した「第7次広島県保健医療計画」では、患者様が精神科医療を受けやすくなり、また更なる医療機関相互の連携を推進していくために、多様な精神疾患等ごとの医療機能を明確化し、広島県の「拠点機能医療機関」と「地域連携拠点医療機関」として定めました。

当院では、下記の通り、広島県における「拠点機能医療機関」、「地域連携拠点医療機関」として、今後、広島県内の精神疾患の医療連携等を担っていきます。

■ 精神科救急

精神科救急拠点グループの活動内容は、①精神科救急に関する情報発信、②各精神科疾患等に対応できる専門職員の人材育成、③地域連携拠点機関の支援、④患者・家族支援及び当事者団体との協働活動などの様々な役割を担っています。

令和元年2月20日には、この事業の一環で広島県医師会館において、『精神科救急関係者向け研修会』を瀬野川病院共催で開催しました。山口県立こころの医療センター 兼行浩史院長先生にご講演頂き、シンポジストとして精神科救急に関連する分野から瀬野川病院 津久江亮太郎院長先生、広島県、広島市消防、広島県警にご報告頂きました。

現在は隔月で定例会議を行い、院内外の精神科救急の専門性の向上のための取組(オンラインでの研修会等)について検討を重ね、今後も広島県内における精神科救急の発展に寄与していきたいと考えています。

■ 統合失調症

統合失調症の地域連携拠点として、令和元年に医師・精神保健福祉士・作業療法士・看護師と他職種間で連携し、取り組みははじめ2年が経過しました。市民講座を企画しておりましたが、コロナ禍で延期となり実現しておりません。コロナ禍でも地域連携拠点病院としての活動を絶やさぬよう入院療養中の患者様に対し、疾患の特徴や治療、薬との付き合い方や対処法などに関する講義や「退院後の生活へ向けての治療と生活」というテーマの疾患教育、医療スタッフへの研修としてオンラインによる「リハビリを旨とした統合失調症治療の取り組み」の開催をしています。今後も統合失調症という疾患について地域社会の理解を深めてもらうよう活動していきますので、よろしくお願いします。



■ 認知症

当院には、認知症治療病棟・認知症疾患医療センター・認知症初期集中支援チーム・重度認知症デイケア・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所があります。定期的に各担当者が集まり、協議しながら下記の活動を行っています。

- ①「認知症」を理解してもらうための講演活動
- ②認知症の鑑別診断や治療
- ③診断後の生活の相談(介護サービス等)
- ④認知症の疑いのある方や、受診困難な方への訪問
- ⑤当事者や家族等への支援(「認知症カフェ」「家族会」「男性介護者家族の会」等の実施)

これからも、関係機関と連携しながら、認知症の方が住み慣れた地域で暮らせるよう支援していきたいと思っています。



■ 児童・思春期

児童・思春期地域拠点グループでは、子ども達の健やかな育ちを守り、子ども達とご家族が生き生きと暮らしていけるように、精神科医療の立場から支援してまいります。子ども達やご家族を支援するためには、医療領域だけではなく、教育・福祉領域など幅広い関係者の皆様との連携が求められます。もちろん、その連携の中心には子ども達とご家族がいます。コロナ禍の状況で難しい所もありますが、今後も様々な関係者の皆様との連携を推進してまいりたいと思っております。



2019年12月には講師をお招きし「三原市学術講演会 児童思春期を考える」を開催しました。現在も新たな研修会を企画・検討中です。委員は外部の研修会に参加したり、講師となって院内研修を開催したりしながら、受け入れ態勢の強化に努めています。

■ 災害医療

当院では平成30年より災害医療の拠点病院としての活動を開始しました。昨今、毎年のように災害のニュースを耳にしますが、三原市も例外ではなく、平成30年7月豪雨では大きな被害に遭いました。当時は、当院からも避難所となった本郷生涯学習センターへDPAT部隊が出動しました。そうした経験から、災害の恐ろしさや常日頃からの準備の大切さを痛感しています。



当院では災害が起こってしまったとしても安心して入院生活が送れるよう、災害に備えての非常食などの備蓄や、避難を想定した訓練に励んでいます。入院患者様だけでなく地域住民の方にも安心していただけるよう、これからも活動していきます。

■ アルコール健康障害

2021年4月より、当院はアルコール使用障害の地域連携拠点病院となりました。アルコール使用障害は精神科医療に繋がりにくい疾患とされます。そのため、当院では治療や再発防止といった三次予防(薬物療法、ARP等)は勿論のこと、啓発活動や早期介入といった一次予防・二次予防にも力を入れています。その一環として、①地域の方を対象とした出前講座、②病院を受診した方が良いのか悩んでいる方向けの事前相談、③減酒プログラム(アルドック)を行っています。②、③に関しては、コロナ禍を鑑みオンラインでの対応も可能です。これらの活動は多職種で連携し、時に自助グループのお力も借りながら共同で行っています。今後も、地域拠点病院としての役割を果たすべく精力的に活動出来ればと思います。



大 慈会 認定・指定一覧

認 定

- 特定病院認定施設
- 協力型臨床研修病院
- 防火優良認定施設
- 日本精神神経学会精神科専門医研修施設

指 定

- 広島県精神科救急医療施設指定病院
- 障害者自立支援医療(精神通院医療)指定医療機関
- 医療観察法指定通院医療機関
- 広島県東部認知症疾患医療センター
- 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス
- 三原市東部地域包括支援センターどりいむ
- 認知症対応強化型三原市東部地域包括支援センター
- 指定介護予防支援事業所
- 生活保護法指定介護機関
- 居宅介護支援事業所

研修・実習受入

- 広島大学病院
- J A尾道総合病院
- 福山医療センター
- 広島大学
- 県立広島大学
- 三原看護専門学校
- 広島県厚生連尾道看護専門学校
- YMCA米子医療福祉専門学校
- 愛媛十全医療学院
- 広島国際大学
- 広島文教大学
- 福山平成大学
- 川崎医療福祉大学
- 広島大学大学院
教育学研究科博士課程前期心理学専攻
- 広島国際大学大学院
心理科学研究科実践臨床心理学専攻
- 放送大学大学院
文化科学研究科臨床心理プログラム
- 高知県立大学
- 福山大学
- 広島都市学園大学 健康科学部
リハビリテーション学科 作業療法学専攻
- 広島福祉専門学校
- 福山医療専門学校
- 広島県介護支援専門員実務研修実習





当院は統合失調症をはじめ、うつ病や神経症、認知症やアルコール依存症など精神科領域のあらゆる病気にに対し先進の精神医療を提供いたします。また当院は広島県精神科救急医療システム整備事業における精神科救急医療施設の指定病院でもあります。病気に関するご家族からのご相談もお受けしていますので、お気軽にお問合せください。

■初診・再診・入院のご案内

初診の患者様は、事前に電話等でご予約のうえご来院ください。来院時には、保険証、他の病院に通院している場合は、紹介状、服薬中の薬があれば、薬の処方内容を書いた用紙をお持ちください。

再診の患者様は、月に一回保険証等の提示をお願いします。

尚、再診予約及び予約の変更は、予約日前日の17時までをお願いします。午前中は混みますので、午後(13:00~17:00)からのお電話にご協力ください。

診察時間 9:00~12:00
(受付8:30~11:30)

但し、土曜日の12:00以降は
時間外の診療になります。

初診受付 8:30~11:00

休診日 日曜・祝日

連絡先 (0848)63-8877

入院治療については、主治医の診察が必要ですので、まずはご連絡ください。

■交通のご案内

- ・三原駅より車で約10分 駐車場40台完備。
 - ・新幹道・中国バス…深線 大谷橋バス停より徒歩8分
 - ・三原駅(隆景広場・バスターミナル北側)からシャトルバス(無料)を運行しております。ご利用ください。
- ※外来休診日は運休

■シャトルバスのご案内

三原駅西口発(行き)		時	三原病院発(帰り)	
	50	7	20	
00	30 50	8	30	50
	10 30	9	10	30
00	30	10	00	30
00	30	11	00	30
		12	00	30
00		13	00	30
	30	14	00	30
10		15	10	
00		16		30

■病院案内図

乗車場所：JR三原駅西口(隆景広場)



編集後記

あけましておめでとうございます。当院の歴史が始まって60年が経過しました。当院を育み、支えてくださった多くの関係者の皆様に深く感謝いたします。人間で言うと60歳のことを耳順(じじゅん)とも言います。論語に「六十にして耳順う(みみしたがう)」という言葉があり、耳順とは、他の人の言うことに素直に耳を傾けられるようになるという意味だそうです。

私は、患者様やご家族の言葉にしっかり耳を傾けられる病院職員でありたいと常々思っております。どうしても慌てたり、焦ったりすることもあり、上手に聴けていないこともあるかと思いますが、これからも学んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。

(H.T.)

